

印刷産業機械・周辺機器 メンテナンスのお願い

機器・部材には耐用年数があります

一定期間使用経過した機器・部材については、性能劣化や故障が避けられません。機械故障した後の事後メンテナンスは、機械停止時間が増大し、機会損失を被ると同時に、一般的に修理に係るコストを増大させる結果となります。周辺機器・部材に固有の想定される耐用年数をご理解いただき、オーバーホールや交換の時期を事前にご計画いただくか、予備品の購入をご計画ください。



裏面に、主要機器・部材のオーバーホール・交換の目安を作成しましたので、ご参照ください。▶▶

周辺機器もメンテナンスが重要です

印刷産業機械には、数多くの周辺機器やローラ等の部材が使われています。機械の安定稼働には、それら周辺機器・部材のメンテナンスも本機同様大変重要となります。



それぞれの製造メーカーが推奨するメンテナンス内容をご理解の上、適切なメンテナンスをご計画いただく必要があります。

「定期点検・保守契約」をお願いします



機械の性能を維持するには、日常の点検、メンテナンスの実施に加えて、定期的な保守点検が必要となります。各製造メーカーは、メーカーによる点検・保守のサービスを提供しています。



確実かつタイムリーな保守を実施するためには、各製造メーカーと「定期点検・保守契約」を結んでいただくことが重要です。

[一般社団法人日本印刷機械工業会 周辺機器部会]

アイグラフィックス(株)
(株)インワ・フーパースイフト
AJC(株)
春日電機(株)
(株)加貫ローラ製作所
(株)金陽社
(株)コスモテック

ジェーピーイー(株)
ジクス(株)
(株)芝橋
ダックエンジニアリング(株)
(株)塚谷刃物製作所
東京給紙機(株)
東京計器(株)

東邦精機(株)
(株)富田技研
ニッカ(株)
日本平版機材(株)
日本ボールドウィン(株)
ハイニックス(株)
(株)ハママツ

富士機械工販(株)
ベッカーエアーテクノ(株)
松本機械製作(株)
マルカキカイ(株)
(株)ミューテック
明和ゴム工業(株)
(アイウエオ順に掲載)

印刷周辺機器の オーバーホール・交換の目安について

- 予防保全の計画の目安として、一般的な使用状態でのオーバーホール・交換の目安を示すものです。
- 日常点検、定期点検・保守の適正な実施が前提となります。
- 実際には、製造メーカーの提供する取扱説明書等の記載が優先されます。
- 詳細は、各製造メーカーにお問い合わせください。



| 分類 | 名称 | 耐用年数*(目安) | 備考 |
|-------------------|--------------|-----------|--|
| 1. 装置 | | | |
| 電装品 | | 5~8年 | |
| | 制御装置 | | 使用環境等によっては3~5年 |
| | 電源装置 | | 使用環境等によっては3~5年 |
| | 操作パネル | | |
| | モーター類等 | | |
| 冷却・水装置関係 | | 5年 | フィルタ類を除く |
| | 湿し水装置 | | |
| | 水・空冷却装置 | | |
| | ローラ温調装置 | | |
| | ろ過装置等 | | |
| 計測器関係 | 濃度計・色彩計 | 3~10年 | 校正:毎年が原則 オーバーホール校正:2年に1回 |
| UV・IR照射装置 | | 3~5年 | ランプを除く |
| 2. その他主要部材 | | | |
| ケーブル・配管類 | ケーブル類 | 8~10年 | 稼働ケーブルは3~5年 |
| | 配管部材 | 6~8年 | |
| | 摺動部品 | 5年 | 使用頻度により変動 |
| | ゴム・パッキン類 | 3~5年 | 使用頻度により変動 インキ計量装置の場合、 ノズル部パッキンは短いものでは1年程度 |
| ゴムローラ | 油性インキ用 | 2~3年 | 製品タイプによっては1年程度 |
| | UVインキ用(樹脂系) | 1年 | 摺動系部材が 良好に維持 されていること |
| | UVインキ用(NBR系) | 1.5年 | |
| | 給水ローラ(油性・UV) | 0.5年 | |

*1年は2,500時間を想定、稼働状況によっては耐用年数は変動します。